農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

中井町長 戸村 裕司

市町村名 (市町村コード)	中井町 (143618)
地域名 (地域内農業集落名)	比奈窪、雑色、鴨沢、松本、藤沢、久所、北田、田中、遠藤、半分形、古怒田地区 (松本上・下地区)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6年 9月24日 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
 注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

町全体で毎年1.5hほどの遊休農地が増加しており、特に担い手がない樹園地を中心に、人が容易に立ち入れないほど荒れている農地が存在している。農業機械が入る等の好条件下にあるにもかかわらず、耕作する人がいないために荒れている農地の対策が必要である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

新規就農者や地区外の農業者にも参入を呼び掛けて、農業の担い手を増やし、耕作をしてもらう体制を整備する。そのために、法人化を進めて小規模農地や不便な農地の買取することによる農地の集積・集約化や、町で農地の集積・集約をしてまとめた土地を用意し、新規就農へのハードルを下げる等の取組を進める。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	44 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	44 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内農振農用地について引き続き、農業を振興していく。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
農地の意向が分からない農家に対しては、地区ごとの座談会の開催や、積極的な面談等を通して、意向を確認する。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構への登録や、地域計画策定にあたっての意向調査結果等の活用により、貸し手と受け手の相談を受ける体制を整備する。
(3) 基盤整備事業への取組方針
農地の集積・集約化にあたって、連単した農地を1つにする対応が必要な場合などに、土地改良事業の利用を検討する。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
農業法人や団体等を育成し、個人以外の農業者を増やす。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農業協同組合が支援体を整備している作業委託として、柑橘、キウイ、お茶は防除、剪定、水稲は農機具を用いた請負を活用する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

--